

平成27年度第6回政策会議

日時 平成27年11月30日(月) 14:00~15:30
会場 市長会議室
参集者 工藤市長 中林副市長 片岡副市長 川越企業局長
種田企画部長 高橋総務部長 入江財務部長

2 「亀田地区における統合施設整備基本計画」(案)について

◎対応 種田企画部長 藤田保健福祉部長 岡崎子ども未来部長
川村教育委員会生涯学習部長 堀田市民部長 内藤都市建設部長
田畑計画推進室長 大泉保健福祉部次長 竹崎計画調整課長
桐澤地域福祉課長 木村保健福祉部管理課長 小林次世代育成課長
佐藤生涯学習文化課長 根本市民・男女共同参画課長 加納亀田支所長

◆ 議題の趣旨 ◆

「亀田地区における統合施設整備基本計画」(案)について協議しました。

◆ 協議の結果 ◆

内容を検討、調整し、再度協議することとなりました。

◆ おもな発言 ◆

■ 種田企画部長

亀田地区における統合施設整備基本計画(案)であるが、9月に素案をまとめ、懇話会を3回、統合5施設の利用者説明会を開催し、案を確定した。

□ 竹崎計画調整課長

統合施設については、多世代、多目的、多機能、省スペース、省コスト、省エネをコンセプトとし、基本方針をマルチ・セービングという考え方で進めたい。継承する機能および施設規模についてはそれぞれ5施設の機能を取り纏め、共用部分を除く必要部分を3,100㎡としている。

配置計画であるが、計画地は現在の亀田福祉センターおよび旧水道局亀田営業所としている。新施設は産業道路側に面した位置で建設を予定し、市道美原1-6号線の方に立体駐車場、こちらは2層3階建て約120台の駐車を考えている。

■ 工藤市長

旧函館市水道局亀田営業所の建物はまだ使えるのか。

町会連合会でも、堅苦しくて入りづらい施設となることが懸念されていた。

旧亀田営業所を耐震改修とあわせて改修し、支所の一部を2階建ての旧亀田営業所に移す方法も考えられるのではないか。

■種田企画部長

旧亀田営業所の1階は車庫であり、面積的には福祉事務所だけでも入りきらない。

■工藤市長

仮に亀田支所機能を統合施設から除くとすれば、事業費はどのくらい下がるのか。

■種田企画部長

支所スペースは約900㎡を想定しており、平米単価を42万円と計算すれば約4億円下がる。

■工藤市長

4～5億円かけるのと旧水道局亀田営業所を耐震化して直すのとどちらが費用がかかるのか。

■内藤都市建設部長

改修そのものはできるが、問題は広さである。

■工藤市長

計画では施設に入っすぐ支所があることになり、開放感がなくコミュニティ施設という感じがしない。

公共スペースが100坪しかない。1階には何を設置するのか。

■堀田市民部長

土日は市民の待合として開放。事務スペースのところだけシャッターなどを閉めて、夜や土日はバスの待合などに使うことを想定している。

□竹崎課長

1階には共用スペースとしてある程度の休憩スペースや飲食スペースをつくる。

■種田企画部長

バスターミナルもできるので休憩できるスペースになればいいと考えている。

■工藤市長

設計業者の選定はプロポーザル方式によるのか。

いろいろな発想を求めて提案型プロポーザルをやったほうがいい。

■内藤都市建設部長

この種の建物であれば、一定程度の提案の条件を与えて提案型プロポーザルにした方がよいと考える。

■工藤市長

今の亀田福祉センターのように講堂が1階という配置が理想的。支所を含め、市民の利用に不便を来さないよう十分工夫する必要がある。

□竹崎計画調整課長

施設の規模は地上4階5,200㎡を想定。施設内容では、利用者が休憩等自由に利用できるスペースを設け、来館者が図書等を利用できるスペースを配置する。また、災害時の避難所として活用できるよう設備を整えるとともに非常用食料の備蓄スペースを確保する。運営計画では、基本的には亀田支所部分をのぞいて利用料金制の指定管理者制度を導入していきたい。想定事業費は29億8,400万で、来年度は建築工事前各種調査と基本設計に関する費用を予算化したい。財源については、合併特例債を基本的に活用することを検討しているが、それ以外にも市費負担の軽減を図る手段を検討している。スケジュールは、平成32年度の施設供用開始を目指し、平成28年度に基本設計、29年度実施設計、30年度31年度の2か年で建築工事を行う。なお、亀田福祉センターについては解体工事があるので平成30年度での廃止、その他の施設については平成32年度の廃止となる。

■工藤市長

例えば、地下に駐車場を造り、建物を3階建てにしてワンフロアの面積を広げることが可能か。地下駐車場ならば費用がかなりかかるのか。

■内藤都市建設部長

費用はさほど変わりはないと思う。今の計画そのものも自走式というスロープで各階に上がっていく形になっており、産業道路に面したところに施設を作って、後ろの方に駐車場を造ることとしている。敷地そのものの高低差が産業道路と反対側の道路と1.7メートルあり、スロープにして車路として使うことは可能。

駐車台数は、予定の120台を地下のワンフロアでカバーすることは難しい。

■工藤市長

計画内容について、再度都市建設部と協議したほうがいい。多少遅れても仕方がないので抜本的に見直すこと。

■種田企画部長

1階2階3階のレイアウト、土地利用の仕方、駐車場のあり方についても一度都市建設部と整理し、レイアウトなどを検討させていただきたい。事業費も若干変更になる可能性もあるが、再度調整し協議させていただきたい。